

コラム

マルタ十字 Maltese cross

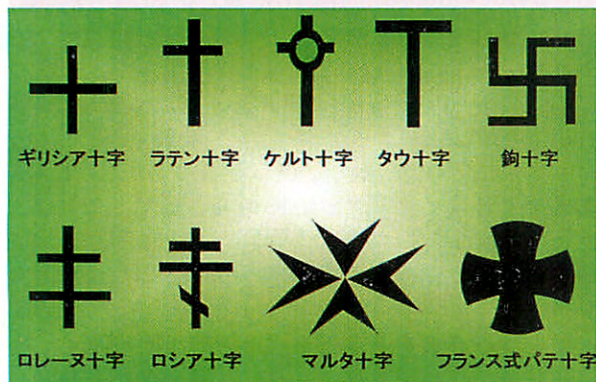
2本の線が垂直に交わるモチーフを基本とする十字架は、陶器、織物、彫刻、絵画などの装飾に、さまざまな文化圏で用いられている。T字形十字架(タウ十字)はギリシア文字の τ (タウ)をかたどったもので、古代エジプト人にとって生命の象徴であった。聖アンデレ十字架(斜め十字)はX字形の十字架である。ラテン十字架は短い横木が縦木の中心より上方で交差している。縦横同じ長さの線が中央で交差するギリシア十字架は、物質界の四大元素(地、水、火、風)を意味し、永遠の象徴とみなされていた。ローヌ十字架は縦木に長さの違う2本の水平な横木がまじわっている。ロシア十字架は、ローヌ十字架の下端に斜めの横木があるものをいう。ケルト十字架は、ラテン十字架に交点を中心とした円が加わったものをいう。先端が右におれたまんじ形の変形十字架(鉤十字)もみられる。20世紀中ごろのドイツでは「逆まんじ」がナチスの標章に用いられた。キリスト教では、罪人としてT字形十字架かラテン十字架にかけられたイエス・キリストの死とその後の復活、さらにキリスト教徒を救済するとした彼の誓いの象徴となった。

マルタ十字架は、ギリシア十字架の交点から足がV字形にひろがり、先端がV字に切れこんだものをさす。聖ヨハネ騎士修道会十字あるいはマルタ騎士修道会十字ともよばれる。8つの先端は8つの至福を意味する。騎士修道会の歴史は、イスラム勢力に対抗するためにパレスチナに向かった第一回十字軍(1096~1099)に始まる。聖ヨハネ騎士修道会はエルサレムで巡礼のための病院活動からおこったため、ホスピタル騎士団とも称される。ふだんは白地の十字がついた黒いマントをはおり、戦闘では赤い十字のマントをはおった。そして、マルタ十字が彼らの象徴となった。1291年に十字軍勢力がパレスチナから追われると、彼らは

地中海のロードス島(14世紀)、さらにマルタ島(16世紀)へと本拠地を移し、イギリス領となる19世紀までマルタを支配した。マルタ騎士修道会とよばれるゆえんである。シチリア島の南に位置する人口34万人あまりのこの小国は、1964年にマルタ共和国として正式に独立した(イギリス連邦所属)。マルタ騎士修道会は現在でもローマに本部をもって存続している。

マルタ騎士修道会が病院活動を基盤として発展したためか、「マルタ十字」様と形容される医学的顕微鏡形態所見が知られている。もっとも有名なのが、ネフローゼ症候群の尿中や乳び腹水に観察される重屈折性脂肪体(コレステロールエステルあるいは中性脂肪)の偏光顕微鏡所見である。脂肪滴を交差する十字模様(マルタ十字)に診断的価値が高い(もっとも、Hudsonらは、紋章的にはマルタ十字よりもフランス式パテ十字 cross pattée に近いと記述している)。尿沈渣ではこのほか、シュウ酸カルシウム結晶が通常顕微鏡観察で美しい十字模様を示す。ゴム手袋に付着する澱粉粒子が細胞標本に混入するとなかなか邪魔なものだ。PAS染色やGrocott染色に陽性となり、場合によっては病原体と誤認される恐れがある。これも偏光レンズで覗くとマルタ十字にみえる特徴がある。じん肺症におけるケイ酸結晶にも美しいマルタ十字が観察される。5つ目のマルタ十字は、光線過敏症を主徴とする骨髄性プロトポルフィリン症 erythropoietic protoporphyria (EPP)の肝病変に認められる。毛細胆管やクッパー細胞内にプロトポルフィリンを主成分とする褐色色素が沈着し、偏光顕微鏡観察で黄色背景に赤色のマルタ十字が観察される。6つ目のマルタ十字は、ダニに媒介される原虫症であるバベシア症 babesiosis に記述されている。末梢血の赤血球に感染したバベシア原虫の輪状体は2度の二分裂を経て、十字体 cruciform body (tetrad)と称される形態を示すに至る。偏光観察は不要で、ギムザ染色標本がたよりである。ダニがこの「マルタ十字」を吸い込むとバベシア原虫の生活環が成立する。

マルタ熱 Malta fever はマルタ島に多く飼育されているヤギに認められるブルセラ症(*Brucella melitensis* 感染症)の別名である。マルチーズはマルタ島原産の小型の愛玩犬種で、ギリシャ・ローマ時代から人気が高い。MALTomaは粘膜のMALT(mucosa-associated lymphoid tissue)原発の低悪性度B細胞性リンパ腫であり、マルタとは無関係。



さまざまな十字